

2. 自然災害の実態

2-1 地震

釧路沖地震

釧路川流域の地震災害は、近年では平成5年1月15日の釧路沖地震が最大で、釧路市では震度6にまで達しており、より安全な防災対策が必要とされている。釧路川は釧路沖地震により堤防が延長約10kmにわたって天端の陥没が生じ、この対策として、堤防の強化や河川堤防での地震観測システム等が整備され、安全度の向上に努めている。



斜面崩壊による家屋の被害



地盤沈下による家屋の被害



天端が陥没した釧路川の築堤

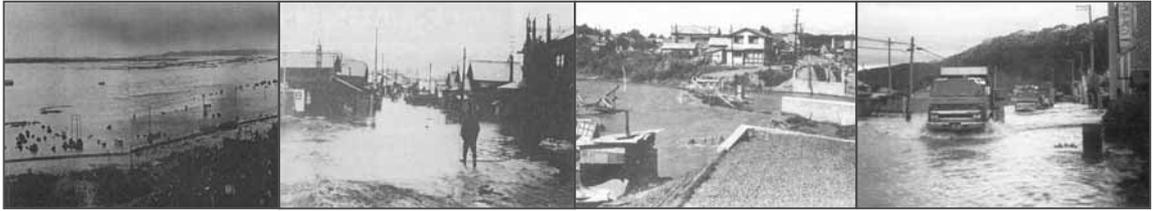


道路盛土の崩壊

2-2 水 害

既往洪水と治水事業の経緯

釧路川の主要な洪水は戦前では大正9年8月の洪水があり、新釧路川開通前で下流部の釧路市街地が浸水したと記録されている。戦後では昭和22年9月洪水が最大である。近年大きな洪水と被害はないが、今後、下流部の人口増加等において大きな出水があった場合、被害が大きくなる可能性がある。

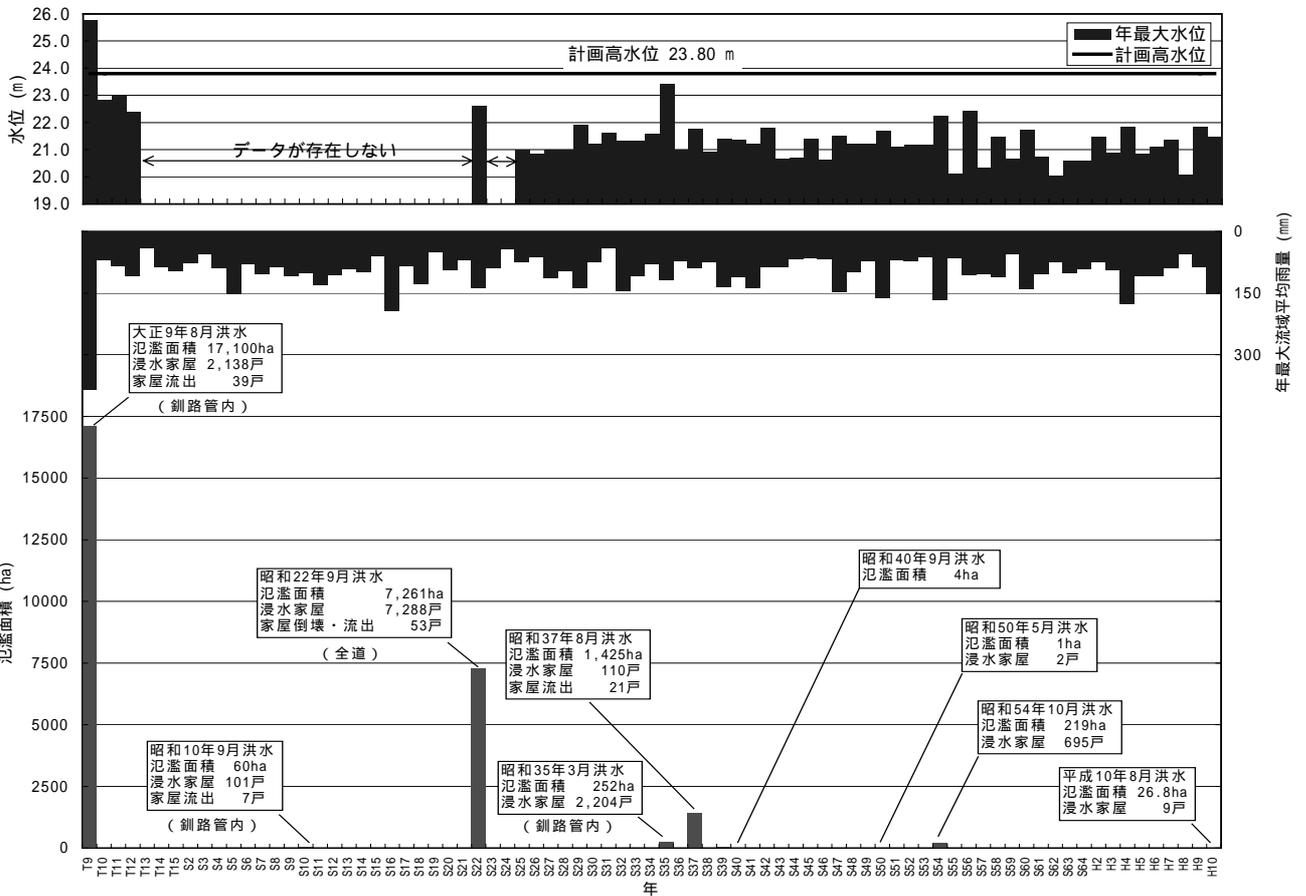


大正9年8月洪水

昭和35年3月洪水

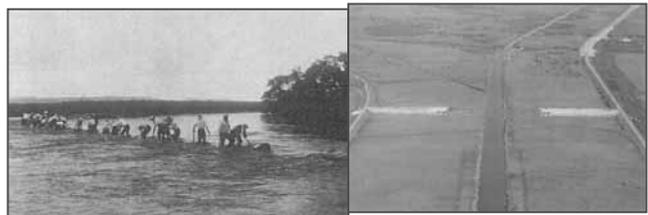
昭和40年9月洪水

昭和54年10月洪水



大正10年 直轄事業開始

釧路川では明期から治水工事を進めていたが、大正9年の大水害を受け、基本的な治水計画の必要性が高まり、大正10年から直轄事業となった。



昭和5年 新釧路川通水

昭和55年 釧路遊水地事業に着手

-) 雨量・水位は標茶基準地点。被害数量は「釧路川治水史」「水害」(北海道開発局)、「水害統計」(建設省河川局)による。
-) 計画高水位とは、計画規模の洪水を安全に流すことのできる水位